

## 5-3 東海地方における地震活動の変化

### On the Seismic Activity in the Tokai District

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図は東海地方における最近5カ年間の地震活動状況を示したものである。図に示したA・B・C3領域の主な活動の変化は次のとおりである。

A領域：この領域の南側における活動のレベルが、1990年以降低下して来ている。

B領域：1988年後半から1989年前半にかけ、空白化した。これ以降、地震の発生数は平常状態に戻った。本年10月31日までに発生した地震は28個\*で、平均すると月1個の割合である。しかし、発生場所が静岡―焼津付近への片寄りがみられる等、時空間的にみて、なお留意すべき点が残されている。最後は10月21日15時49分のM3.1（静岡市付近）である。

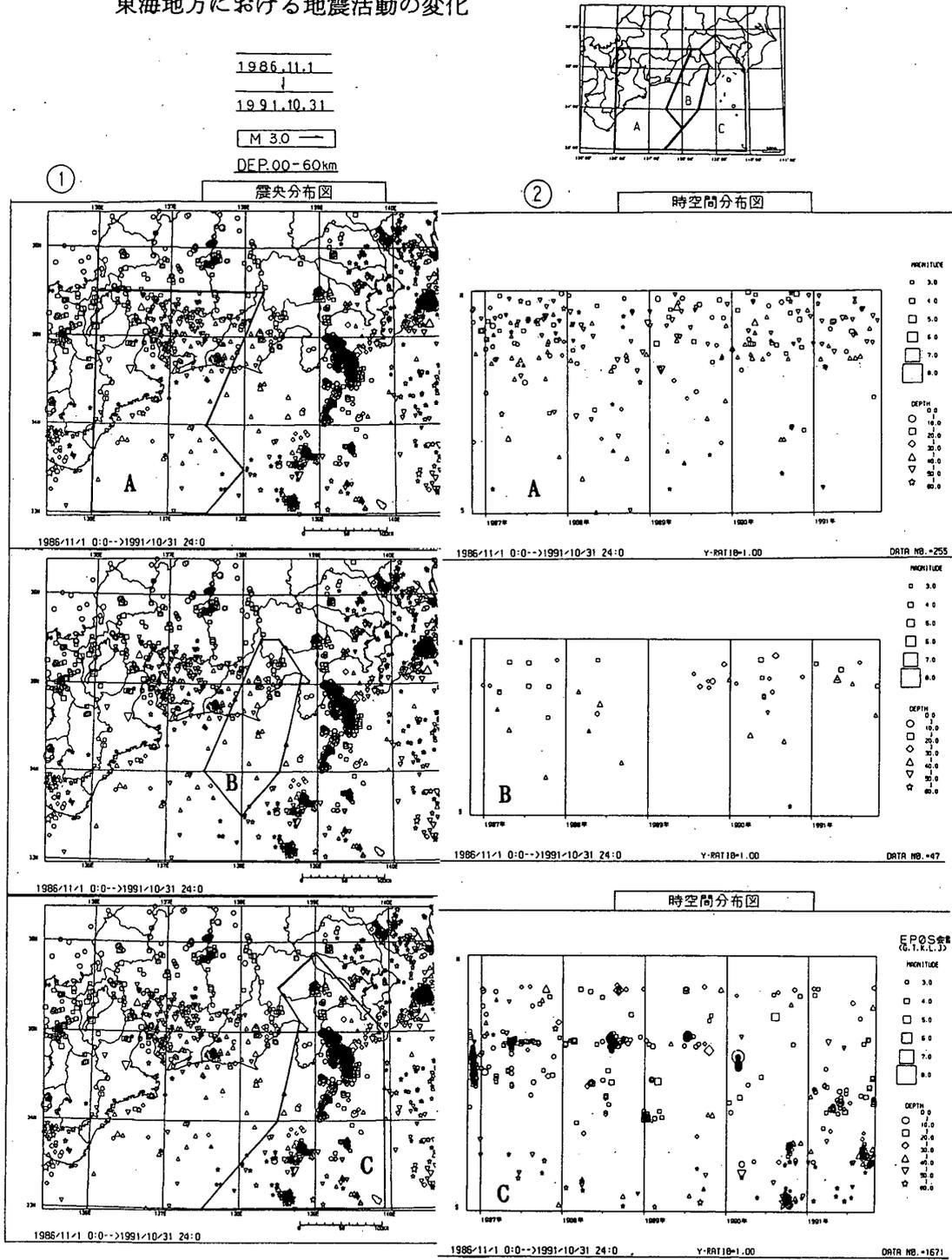
C領域：1990年2月20日に伊豆大島西方沖でM6.5の地震が発生して以降、伊豆半島東方沖や伊豆大島近海では、比較的静かな状態が続いている。これに対し、新島近海から南の海域では、東海道はるか沖のM6.6（'90年9月24日）やM6.3（'91年9月3日）、三宅島近海の群発地震（'90年10月）、神津島から新島近海にかけての地震活動の活発化（'91年4月～10月）など、にぎやかな状態となっている。これらの活動については、会報第44巻・第45巻・第46巻及び本巻別項参照。

第2図は、B領域を中心に東西方向に少し広い範囲に領域を設定し、東海地震の想定震源域の西側及び東側の活動の変化を含めて見ようとするものである。B領域で空白化があった時期には、空白化の広がりが静岡・愛知県境にまで及んでいることが示されている。また、前記に述べたB領域の地震発生場所の片寄り傾向（1989年後半以降）もみられる。

注：\*の28個の地震は次のとおり。

'91年4月25日07時39分のM3.0（深さ30.5km）、5月11日08時52分のM3.9（同20.0km）、7月1日13時33分のM3.1（同30.2km）、8月2日11時51分のM3.3（同25.0km）、10月16日12時38分のM3.1（同36km）、10月21日15時49分のM3.1（同18km・最大震度1）。なお、8月までの分はすべて最終値である。また、'89年7月～'91年4月までの22地震については、会報第44巻～第46巻「東海地方における地震活動の変化」の末尾に掲載。

東海地方における地震活動の変化



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

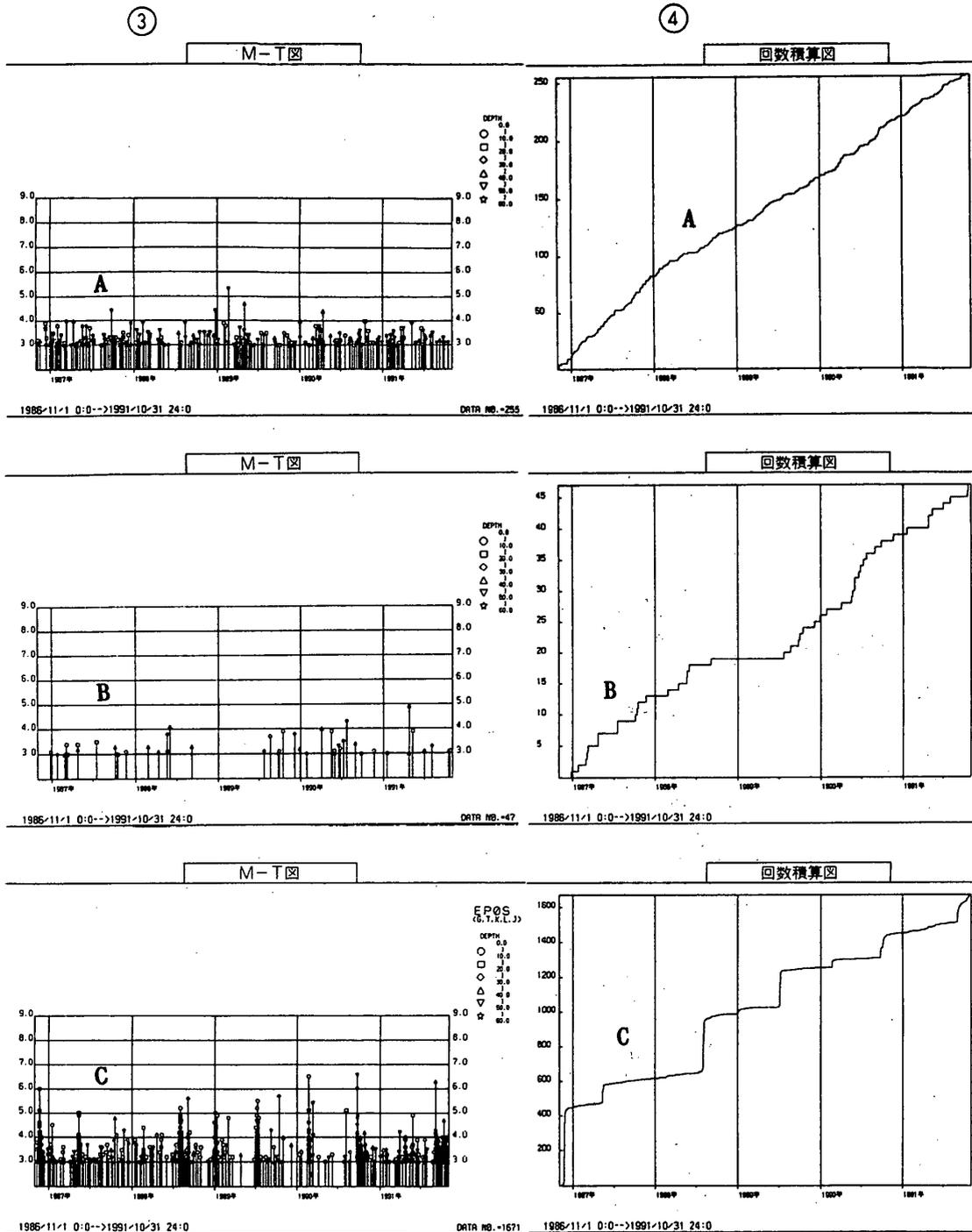
ザンティ: '91年 9月 1日 →

第1図 東海地方のA・B・C領域における地震活動

(1986年11月1日～1991年10月31日・M3.0以上)

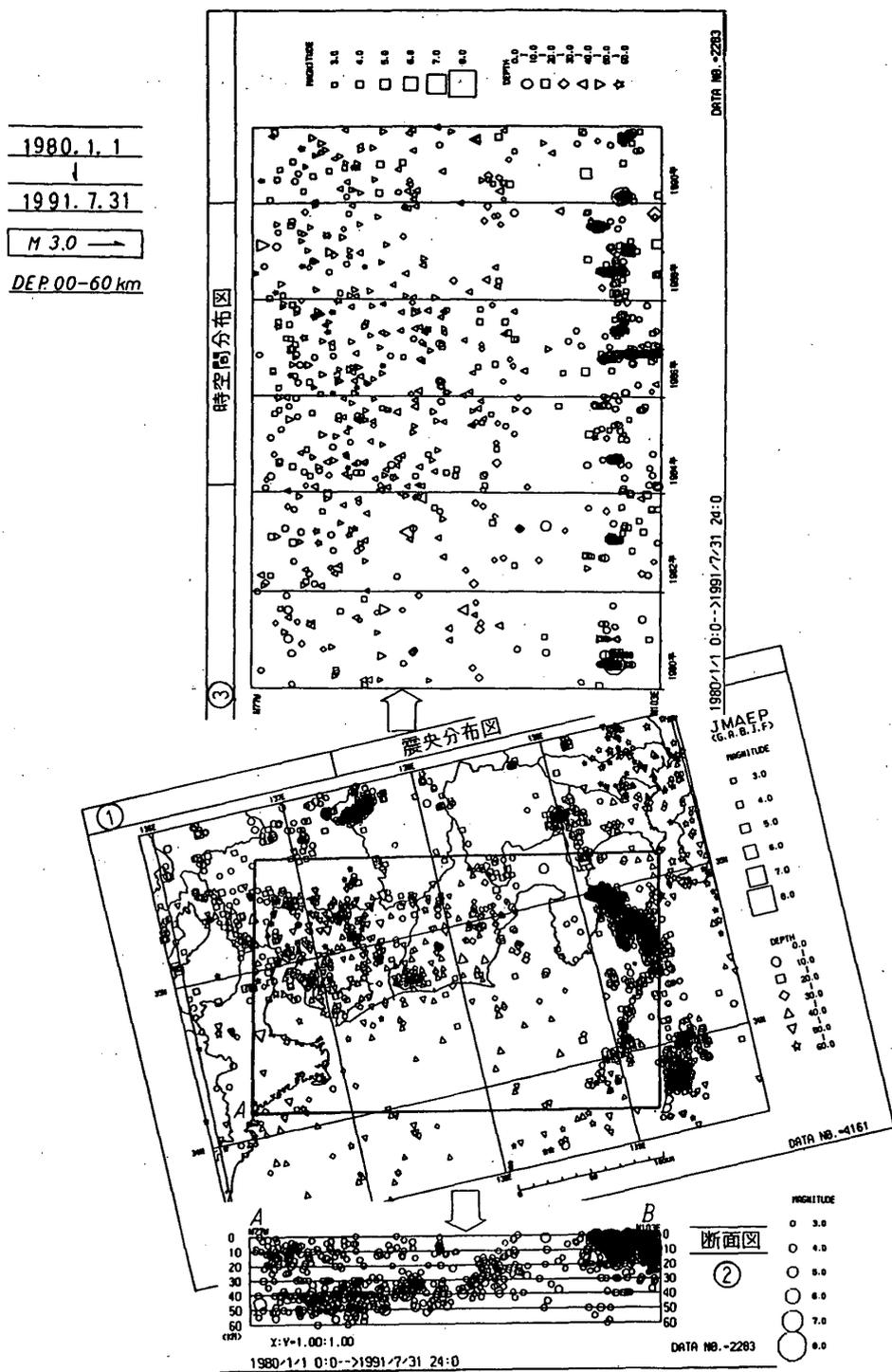
①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (Nov. 1, 1986 – Oct. 31, 1991:  $M \geq 3.0$ ).  
①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.



第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)



第2図 1980年1月1日～1991年7月31日における東海地域の地震活動 (M3.0以上)  
 ①：震央分布, ②：断面図 (A-B), ③：時空間分布

Fig. 2 Seismic activity in the Tokai District (Jan. 1, 1980 – Jul. 31, 1991;  $M \geq 3.0$ ).  
 ①: Epicentral distribution, ②: Vertical section of ① (A-B), ③: Space-time plot.